



アイアル少額短期保険株式会社

初の少額短期保険会社同士の合併によって2011年2月に誕生。愛のある、身近な「オリジナル保険」の提供を目指し、他業種、他業態との積極的な提携で斬新な商品開発を行っていく。

<http://www.air-ins.co.jp/index.htm> 問い合わせ先/0120-550-378

アイアル少額短期保険株式会社 代表取締役社長 兼 仕入れ部長

上野直昭氏

保険会社や来店型保険ショップなどを手がける保険代理店での勤務、学総株式会社の社長を経て、アイアル代表に。

時代と共に変化するリスクやニーズに商品開発で対処することがミッション

マーケットとニーズ=アイデアがあればどんな業態に対してでも商品開発の提案を怠らないアイアル少額短期保険。「ノと言わない保険業者」が、介護施設を運営している株式会社東日本福祉経営サービスと新商品を開発中。新商品は、介護認定を受けた方の経済的負担を軽減するための介護保険で、その開発背景を語ってもらった。

上野 五十嵐社長は、我々と会う前から保険商品のイメージを持っていたよね。

五十嵐 要介護者やその家族から直接要求があったわけではありませんが、必要性は強く感じていました。介護保険制度は2000年から導入されましたが、その後も高齢化は進む一方です。しかし1割負担9割給付で、社会は当時のまま変わらない。しかも障害者自立支援法なんていう法律までできて要介護者や家族を取り巻く状況は悪くなっているといってもいいくらいです。

上野 それは介護するご家族の経済的負担が大きいということですね。

五十嵐 もっとも高いニーズはその点にあります。介護認定は時間が経過することで重度化していく可能性がとても高いのです。そうなると同時に負担も増えていきます。その増加した負担を補填することでご家族の経済状況を圧迫することのないように保険でサポートしていきたいのです。



株式会社
東日本福祉経営サービス
代表取締役
五十嵐 豊氏

上野 ご家族の負担軽減以外にもメリットはありますか？

五十嵐 要介護者のなかには、費用の節約を考えて施設で受けられる追加サービスを遠慮されてしまう方もいらっしゃいます。その背景には介護認定が上がったために負担が増えてしまったということもあります。重度化したらなおさらフルスペックの介護サービスを受けたいと考えるはずなのに、思いと現実が逆行してしまっているのです。

上野 当然、施設側としても十分なサービスを提供したいわけですからね。

私たちとしてはもうひとつの側面からもメリットがあると考えています。重度化することによって経済的負担が増えてしまい、それは介護施設側にとって介護サービス費未回収のリスクが上

がります。その場合もこの新しい介護保険によって重度化する以前の経済状況が維持されることで、リスク回避が遂げられると考えています。

五十嵐 なるほど。介護される側、介護する側、ご家族すべてにメリットが生まれるわけですね。

上野 介護の世界を見ると保険のニーズはあるし、こちら側にはそういった商品イメージもあったわけです。

五十嵐 その商品イメージは我々が持っているものとアイアルさんのものが非常に近かったですね。同じような発想を持っていただけたことと、決して簡単に物事が運ばない介護分野に興味を示していただけたことに大きく共感しました。それが今回の介護保険開発実現のきっかけです。 

ニーズに応じてこんな商品も開発を検討中です。(上野)

【不妊治療中の方に向けた医療保険】

不妊治療中の方は保険に入れなかったり、入っても条件が付けられたりと、保険会社によって審査規定が定まらないのが現状です。不妊治療は、「必ず妊娠できる」という治療ではなく、妊娠しない場合はさまざまな治療を繰り返し、治療期間が長期化することもあります。肉体的にも精神的にも、

そして経済的にもとても負担の大きい治療といえるでしょう。検討中の新商品は、そんな女性たちを応援するフリーペーパー「ジネコ」と共同で、みなさんが安心して不妊治療に専念できるような医療保険を検討しています。私たち少額短期保険会社は、ニッチな分野でも、そこで困っている人にダイレクトに応えていきたいと思っています。

●参考サイト/不妊・妊娠・出産・育児・女性の為の健康生活ガイド「ジネコ」 <http://www.jineko.net/>